



央州寺通信 新年号



「経に出会う」

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。早いもので 2020 年ですか。私が小学生の頃には「ノストラダムスの大予言」というものが流行りまして、1999 年に人類が滅びるといようなことが言われていました。結局何もおこりませんでした。インターネットの台頭という新しい世界の登場ということを見ると、ある意味では古い人間世界が滅びたのかもしれないね。

また、2000 年には 2000 年問題が盛んに叫ばれ、2001 年には東海岸で同時多発テロが起こりました。母が往生したのも 2001 年、もう私の人生の半分近く母と別れて過ごしているのですね。私としてはそんなに前の話ではない気がするのですが、その頃よりもう 20 年も経っているのだなと思うと驚きと同時にいかに自分が年の変化に鈍いかということに気づかされますね。

さて、上でも使いましたが「時が経つ」という言い方をしますね。「経つ」というのは常用外の漢字の使い方らしいですが、漢字の意味を考えるとなるほどな一、と納得させられます。

「経」というのは「たていと」という意味であります。糸というのはどのような使い方をされていたのかというと編み物をするだけでなく、物の長さを測るのに使われていました。糸の「測る」という使用方法から時の長さを「経つ」と表現したのかな一と思うと昔の人々の感受性の豊かさに感銘を受けます。

この「経」という文字は仏教徒にも馴染みの漢字であります。浄土真宗では「浄土三部経」と言って『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』の三経を大事にしますが、仏教には多くの経典があります。では、仏教における「経」とはどういう意味でしょうか。

七高僧の一人、善導大師(613-681)の『観経疏』には「『経』といふは^{けい}経なり。経よく^い緯^{みつじょう}を^{ひつじょう}持て^{ひつじょう}匹丈を成ずることを得て、その^{じょうよう}丈用あり。」とあります。「経」と「緯」という漢字が出てきますが、位置を示

す際に経度・緯度という言い方をしますね。経度とは縦、緯度とは横の位置を示すという事からもわかるように「緯」とは「よこいと」の事です。ですから、善導大師のお言葉を簡潔に申しますと、経糸は横糸を持って、布を織り、織り成した布にはそれぞれの働きがある。というような意味であります。

布というのは経だけでも成り立ちませんし、緯だけでも成り立ちません。二つがあって初めて布が出来上がるのです。また、緯は経によって落ちない様に支えられています。ですから仏教における「経」というのは私たち(緯)という「よこいと」が落ちないように私たちを支えてくださる教え(経)であると言えます。そして、「よこいと」だけでは美しい織物を織ることは出来ないように、「経」によって支えられる人生こそが実りのある、美しい人生になるともいえます。

また、「経」が物を測るという使い方をされていたことを先に言及しましたが、物を測るということから「経」というものを味あわせていただきますと、「経」には「ものさし」という意味があるともいえます。私達は普段の生活の中で、自己中心的な心のものさしを使って物を見て、人を判断しています。ですから、その「ものさし」は人によって目盛りがまばらで正確に物・人を見ることはできません。しかし、仏教の経典というのは仏さまという真実に目覚められた方の「ものさし」であります。仏さまの「ものさし」で私たちを見た時にいかに自己中心的な物の見方をしていたことか、と自己反省を促されます。それが本当の意味での「経に出会う」ということなのではないでしょうか。

2020年は新しい10年の始まりの年であります。まだ「経」に出遇われていない方はどうか「経」に出遇われますように。また、もう既に「経」に出遇われている方はどうか引き続き「経」との出遇いを楽しみますように。

合掌

菅原祐軌

央州寺駐在開教使